

平成 28 年度第 2 回 IODP 部会執行部会議事録

日時:2016 年 7 月 13 日(水)10:00~13:15

場所:海洋研究開発機構 東京事務所 大会議室

出席者:

執行部:西 弘嗣(部会長/東北大学) 村山雅史(部会長補佐/高知大学)

池原 研(産業技術総合研究所) 黒柳あずみ(東北大学) 齋藤めぐみ(国立科学博物館)

高橋嘉夫(東京大学) 中西正男(千葉大学) 森下知晃(金沢大学) 山田泰広(JAMSTEC)

リエゾン:安間 了(JRFB 委員/筑波大学) 小村健太郎(陸上掘削部会長/防災科学技術研究所)

オブザーバー:木村 学(J-DESC 会長/東京大学) 佐藤英章 牧武志(文部科学省)

川村善久(JAMSTEC) 江口暢久(JAMSTEC)

事務局:齊藤千鶴 品川牧詩 高橋可江 双木真理子(JAMSTEC)

欠席者:道林克禎(静岡大学) 横山祐典(東京大学大気海洋研究所) 大河内直彦(JAMSTEC)

針金由美子(産業技術総合研究所)

議事次第

1. 前回会議(160407)議事録(案)確認..... 資料 1
2. IODP の動向
 - ・掘削航海動向報告 資料 2-1, 2-2
 - ・JRFB 報告 資料 3-1, 3-2
 - ・ECORD FB 報告 資料 4
 - ・SEP 報告..... 資料 5
 - ・委員ローテーションについて(SEP、JRFB 公募、CIB 公募) 資料 6
 - ・Chicxulub K-T impact crater(364)に関して
 - ・IODP Forum & PMO meeting 資料 7
3. J-DESC 関連
 - ・会員提案型審査委員の選出..... 資料 8-1, 8-2
 - ・USSSP 堆積スクールへの公募について
 - ・ちきゅう国際乗船スクール報告 資料 9
 - ・ちきゅう特別公開(8/20)@石巻港について 資料 10
 - ・地質学会出展について
4. 陸上掘削部会の動向
5. その他
 - ・ECORD summer school 報告..... 資料 11
 - ・台湾沖掘削ワークショップについて 資料 12
 - ・マッカーサー基金について 資料 13
 - ・南海掘削についての意見交換
 - ・その他
 - ・次回執行部会開催日程確認

配布資料

資料 1	前回執行部会(160407)議事録(案)	資料 7	IODP Forum agenda
資料 2-1	掘削航海スケジュール	資料 8-1	会員提案型審査委員ローテーション
資料 2-2	乗船決定・応募者リスト	資料 8-2	J-DESC 執行体制
資料 3-1	JRFB 報告書	資料 9	「ちきゅう」国際乗船スクール報告
資料 3-2	JR schedule FY17-19	資料 10	「ちきゅう」特別見学会@石巻港(案)
資料 4	ECORD FB 報告書	資料 11	ECORD Petrophysics Summer School 報告
資料 5	SEP 報告書	資料 12	SW Taiwan IODP Workshop
資料 6	IODP 委員ローテーション	資料 13	マッカーサー基金について

議事録(案)

1. 前回(160407)議事録(案)確認 資料 1
会議終了までに意見は無く、議事録案は原案通り承認された。

2. IODP の動向

・掘削航海動向報告 資料 2-1, 2-2

事務局及び西部会長より資料に基づき報告がなされた。

- ・学生が応募した際に相対的に評価が低くなることについて、戦略として考慮すべきと議論があり、過去に応募があった学生の定着率を調べ検討すべきとのコメントがあった。

実行項目(160713-01):事務局で過去に応募した学生の定着率を調べ次回以降の執行部会でレビューを行う。

・JRFB 報告 資料 3-1, 3-2
安間氏より資料に基づき報告がなされた。

・ECORD FB 報告 資料 4
西部会長より資料に基づき報告がなされた。

・SEP 報告 資料 5
江口氏より資料に基づき報告がなされた。

・委員ローテーションについて(SEP、JRFB 公募、CIB 公募) 資料 6
事務局および西部会長より資料に基づき報告がなされた。

実行項目(160713-02):SEP 委員については 2 名を選定し、事務局から SSO へ連絡する。EPSP についても同様に事務局から SSO へ連絡する。

合意事項(160713-01):JRFB については執行部会から 2 名の候補者を出し応募する。CIB についても候補者を選定し応募する。

・Chicxulub K-T impact crater(364)に関して
西部会長より資料に基づき報告がなされた。

- ・航海について海外ではニュースになっているが、日本側でも IODP の成果として発表をしていく必要がある。
- ・IODP が国際プロジェクトとして実施されていることをアピールすべき。
- ・デリーレポートを J-DESC のウェブページに掲載する等してはどうか。

実行項目(160713-03):事務局がサイエンスパーティにコンタクトし、成果発表について検討する。

・IODP Forum & PMO meeting 資料 7
事務局から報告がなされた。

実行項目(160713-04):PMO ミーティングへの対応について、事務局が案を作成し、木村会長、西部会長へ資料の確認・調整を行う。

3. J-DESC 関連

・会員提案型審査委員の選出 資料 5-1~5-3
西部会長および事務局より資料に基づき説明がなされた。

合意事項(160713-02):昨年度に引き続き井上氏(岡山大学)は継続、坂口氏(山口大学)は新任委員として事務局から打診を行う。

・USSSP 堆積スクールへの公募について

西部会長より説明がなされた。

- ・USSSP スクールについて公募がなされており、事務局からコミュニティに対し案内を出してもらいたい。
- ・応募者が多かった場合は執行部会メンバーへのメールなどにより選考を行う。

実行項目 (160713-05) : USSSP スクールについて事務局から J-DESC コミュニティに募集情報を送る。

・ちきゅう国際乗船スクール報告 資料 9

池原委員および西部会長より資料に基づき説明がなされた。

- ・参加者を班に分けた際に年代層をうまく配置したことにより、まとめ役がうまく機能していた。
- ・実施後の成果についてホームページにも出しておいてもらいたい。
- ・IODP Forum の資料にも成果として記載しておくべき。

・ちきゅう特別公開(8/20) @石巻港について 資料 10

事務局より説明がなされた。

合意事項 (160713-03) : 船内の説明者として池原委員、東北大(TBD)として進めることとなった。

・地質学会出展について

事務局より説明がなされた。

合意事項 (160713-04) : 展示について JAMSTEC 掘削センターと共同出展(1 ブース)する。

4. 陸上掘削部会の動向

小村部会長より報告がなされた。

- ・前回執行部会での議論内容について報告された。
- ・IODP と ICDP の共同プロポーザルである ADP について、ICDP として情報を先取りすることが難しい状況。ただし、IODP では SEP などで確認することが可能であることから、それらの機会に情報収集を行う。

5. その他

・ECORD summer school 報告 資料 11

江口氏より資料に基づき説明がなされた。

- ・これまでコミュニティに対してアナウンスが無かったため、今後は案内を出すべき。
- ・物性や状態の情報は、様々な分野で議論を行う際の共通言語となる。
- ・ベーシックなテクニックとしてインテグレートしていくべきで、意識的に普及・教育を進めるべき。
- ・プロジェクト全体の中でどこにどれだけ人材が必要か、戦略が必要。

実行項目 (160407-06) : ECORD summer school について、今後連絡が来た際は J-DESC コミュニティに対し周知を実施する。

・台湾沖掘削ワークショップについて 資料 12

山田委員より資料に基づき説明がなされた。

- ・台湾はこれまでもコアスクール等にも参加があり、様々な面で重要なパートナー。
- ・ボーダー付近は「ちきゅう」で掘削できないため留意してもらいたい。
- ・サイエンスベースでのコミュニケーションは大事であるが、プロジェクトベースとなった場合に国と国との契約になる。J-DESC が過去の日本海掘削でも経験したように、ある種の判断が J-DESC として必要になるケースもある。
- ・現段階では WS の後援は問題ないと判断するが、プロポーザルの段階で改めて J-DESC として確認する。

合意事項 (160713-05) : 本ワークショップについては J-DESC として後援を行う。

・マッカーサー基金について 資料 13

山田委員および森下委員より資料に基づき説明がなされた。

- ・資料だけでは全体が分からないため、もう少し詳細な資料が必要。
- ・基金の性質、過去の採択案件等の情報を調べるべき。
- ・J-DESC としては、上記の情報収集後にコミュニティとして支援が妥当であるかを判断してからとしたい。
- ・JAMSTEC がコミュニティと共に外部資金にも目を向けて資金獲得しようとしていることは歓迎する。

・南海掘削についての意見交換

牧氏より説明がなされた。

- ・Exp. 365 のジーニアスプラグなどの浅いところでは成果が出ている。
- ・一方で、南海掘削において深掘りを実施していくための科学的なストーリーを予算要求上で説明していくため、意見交換をしたい。
- ・浅いところのごく最近の変動を見ており、深いところはより古い変動が記録されている。つまり、より過去の現象を把握できる可能性があると考えられる。

・次回執行部会開催日程確認

9/5 の週として事務局より日程調整を行う。